

第1回分収林を含む森林管理のあり方検討委員会 議事要旨

- I 開催日時：令和6年7月2日（火）14時～16時
開催場所：兵庫県庁第3号館7階 中会議室
- II 出席委員（出席5名）
大橋委員、金澤委員、上月委員、寺元委員、長谷川委員
- III 議事次第
 - 1 開会
委員及び出席者の紹介（資料1）、委員会の概要説明（資料2）
 - 2 委員長の互選
設置要綱第5条第2項の規定に基づき、委員長を金澤委員に、第5条第4項の規定に基づき、職務代理を大橋委員に選出（資料2）
 - 3 会議の公開及び傍聴の取扱等
会議の公開及び傍聴の取扱について説明（資料3）
 - 4 議事
 - （1） 検討スケジュール（資料4）
 - （2） 分収林地を含む森林管理のあり方について（資料5）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、各委員から意見聴取（別紙1「主な発言等」参照）
- 5 閉会

(別紙1)

主な発言等

●委員

- 大きい山になるほど、全ての林分が同じ条件ではないが、ある程度一体的に経営する必要がある。面積が大きいならJクレジットの活用を検討して欲しい。
- 広葉樹林化の考えは面白いが、短期間(数十年)でお金になるような観点に注目して欲しい。

●委員

- ゾーニングして施業を分けるのは面白い考え方。レーザー測量等で現場に行かずに正確な状況が分かるようになっており、きめ細かなゾーニングが必要。広い面積なので、エリアを絞って集中的に施業を行い、鹿害もエリアを絞って対策すれば良いと思う。
- マンパワー不足は、市町職員OBの活用や、森林ボランティアに研修を行い、森林管理を担えるまで育成してみてもどうか。

●委員

- 分収林は解約を進めるものと認識しているが、一度に大面積を解約されても市町の対応が難しいため年度を分けるなど解約方法をよく検討してほしい。
- ゾーニングは区分をどうするかが難しい。今は保育林でも、後に道ができれば施業が可能となり木材生産林になる契約地もある。契約地だけでなく、周囲の林班の状況も考慮して経営計画を立てる視点でのゾーニングが必要。
- 多くの市町は、解約地の受け入れは困難ではないか。森林経営管理制度は、所有者や林業事業体が管理できない条件の悪い森林を、市町が最低限の管理を行う最終手段という認識。施業も最低限しか行わない。
- 費用負担も課題で、十分に確保できていない造林補助金の確保が最重要。造林補助金が確保できないと、市町での受け入れは困難。
- マンパワーやノウハウが課題。マンパワーは机を並べて一緒に仕事ができるぐらいのレベルの人材確保が必要。例えば人材派遣をしてもらえないか。財源は森林環境譲与税が考えられる。
- 今後の管理移行の進め方について、具体的手順も示してほしい。資料を見ると伐採林を含む契約地は林業事業体、伐採林を含まない契約地は市町と話していくように見えるが、まずは所有者と話し、最終的に市町にお願いに来るぐらいでないといけない。
- 林業従事者や林業事業体は増えているが、手入れが必要な山もたくさんあり、労働力が足りない状況なため、担い手の育成も必要。

●委員

- この計画を実行するためには、少子化や過疎化の中で、どうやって現場で動く人材や組織を育成して維持していくのかが大きな課題。
- どういう管理が公益的機能を損なわず、増進していく管理なのかをしっかりと考える必要がある。
- 針広混交林化は、成功事例がほとんど無く、いろんなチャレンジをする事が大切。どの

ような管理手法にしても、モニタリングして見直しするような制度作りが必要。森林林業技術センターと一体となって新しい管理手法を作り上げていく事が重要。

- 契約地は円山川流域が多く、急傾斜で多雪地・標高が高いところが多く、そこでの混交林化はチャレンジング。場所によって本来の植生が変わるため、目標林型を細かく設定し、コストや作業性を踏まえた施業方法を検討する必要がある。
- 例えば道から離れていても搬出が可能な架線系で皆伐を行い、周囲をシカ柵で囲えば植栽せずに混交林化が可能かもしれない。
- カルテの作成は高く評価。カルテを高精度化して、解約交渉でも相手方に施業の選択肢をメニューで示せば、納得を得やすいのでは。
- 市町だけでなく県の職員も人材が不足しており、市町の支援をしようにも県もマンパワーがなくてはできない。大学や行政も含めた森林管理に関わる多様な人材育成の中長期的な戦略を立てていただきたい。

●委員

- 公益的機能の高い針広混交林化については、様々な観点を考慮して地域ごとに明確な目標林型を定める必要がある。公益的機能の中のどの機能を発揮させるのかによって目標林型が変わる。その場所の気候、地形、土壤に適した樹種選択が必要。
- 管理を市町に任せる事については、専門知識やマンパワーの不足、予算面の問題により難しいと思う。県OBの活用やボランティアの教育や活用も重要。
- 針広混交林の実施に向けた成功事例を含めた良いマニュアルを作り、アップデートしていく必要がある。